

平成29年度 第5学年 授業改善プラン

教科	観点	課題	指導の視点	具体的な手立て・改善策
国語	国語への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を正確に覚えていない。特に、季節の言葉など普段使いをしない語彙力が低い。 話の要点をおさえていない。まとめてわかりやすく伝えることが難しい。 修飾語の関係が理解できていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習を計画的に進め、復習の時間を多くとり、くりかえし練習できるようにする。教科書の小単元を活用し、充実したものにする。 要旨をまとめる活動を通して、話の内容を正確に、適切に理解できるようにするとともに、伝える力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の練習、復習をしっかり行う。漢字のミニテストを定期的に行い、定着を図る。国語辞典や漢字辞典を活用し、様々な言語に触れる機会をもつ。読書量を増やし、語彙力を高める。 大事な点やキーワードをおさえることで、要点をまとめる練習をしていく。順序立てて組み立てることを意識させる。 「誰が」「何を」「どのようにした」など、文章の組み立てをきちんと行い、文章の言葉から引き出していく。説明文では、筆者の主張を明確にして要旨をまとめ、友達同士で交流することで内容を深めていく。
	話す・聞く能力			
	書く能力			
	読む能力			
	言語についての知識・理解・技能			
全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて		漢字の意味を考えながら、日常的に使えるようにする。	国語辞典などを活用したり、読書量を増やしたりすることで、語彙力を高める。また、学習した漢字を日常的に使用、定着するように意識させる。	
社会	社会的事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 調べたことを、自分の生活と関連付けて考えられない児童がいる。 資料からの読み取りは得意であるが、読み取ったことを比較したり考察したりすることが苦手な児童がいる。 四方位や県名等、既習事項の定着が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各単元において、課題解決に向けて、資料の読み取りの中から、必要なことを丁寧に書きまとめるよう指導を進める。 資料の読み取りの回数を増やす。 既習事項を振り返る機会を増やし、定着に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 導入の場面で、単元の学習問題の解決に向けて、どのようなことを調べ、まとめていけばよいか考えさせる。 社会科の資料集や本などから、多くの資料を提示する。 授業で予想を立てる場面において、既習事項をもとに考えるよう声掛けをする。 東京ベーシックドリルを活用することで、既習事項の定着を図る。
	社会的な思考・判断・表現			
	観察・資料活用の技能・表現			
	社会的事象についての知識・理解			
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
算数	算数への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 数学的な考え方が十分に身に付いていない児童がいる。 単位の必要性について気付かせたり、共通するきまりを見つけてまとめたりするなどの考え方を高める必要がある。 問題の意図にそぐわない解答をする。 基本的な計算力の定着が十分でない。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習の流れを常に意識させるようにする。 既習事項を生かしながら考えるように前時までの復習をきちんと行う。 問題文の意図をよく把握させる。 基礎的な計算がきちんとできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題解決学習の流れのなかで、自分の考えを図や数直線などを用いて分かりやすく表すようにさせ、友達の考え方のよい点を認めるようにさせる。 既習事項を意識させるために提示したり、言葉で述べさせたりして、問題を解決させるようにする。 問題文を音読させたり、単位に気をつけさせたり、答えを予想してから自力解決させたりする。 東京ベーシックドリルを活用して反復練習を行い、基礎基本の定着を図る。
	数学的な考え方			
	数量や図形についての技能			
	数量や図形についての知識・理解			
	全国学力調査、児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
理科	自然事象への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項の定着が十分でない。 既習事項を活用しながら予想を立てることが難しい児童がいる。 自然事象が理解できていなかったり、科学的知識が身に付いていない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項を復習する時間を取り、学習をスムーズに進められるようにする。 既習事項や生活経験から、自分なりの予想を立てるときに根拠をもって立てられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の系統を考え、単元の初めにこれまでの学習を確認してから学習を進めていく。また、自分たちで問題をたて、実験方法を考え、実験観察したものはよく理解できている傾向にあるため、問題解決的な学習の中でできるだけ実験・観察を行うようにする。 既習事項や今までの経験を想起できるような補助発問を通して、言葉で表現・説明できるようにする。また、予想したことをペア・グループ・全体などで発表する機会をとり、必ず全体で共有する。
	科学的な思考・表現			
	観察・実験の技能・表現			
	自然事象についての知識・理解			
	児童・生徒の学力向上を図るための調査結果を受けて			
音楽	音楽への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 難しい課題が出てくると、やる気がなくなってしまう児童がいる。 拍を感じてリズムを叩くことが苦手な児童が多く、アンサンブルがまとまらなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> できることを増やし、達成感を感じさせる指導をしていく。 拍感を身に付けさせ、拍の流れによってリズムを叩くことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題設定を工夫し、少しずつ達成できるようにする。前時と比べてできるようになったことや頑張りを認めるような声掛けを行う。 歌や器楽の指導の中でも、手拍子でリズムを叩いたり、休みを意識させたりすることで、拍の流れによってリズムを感じ取らせる。
	音楽表現の創意工夫			
	音楽表現の技能			
	鑑賞の能力			
図画工作	造形への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 学年全体を通して、つくること・描くことに対し意欲的で、進んで学習しようとしている。 時間内に仕上げるために、最後の仕上げが粗雑になってしまう児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後もやる気を伸ばしていけるよう、学習課題を工夫する。 最後の仕上げまで丁寧にを行うよう指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学期末などに児童から「やってみたいこと」をリクエストして、次学期に授業で取り入れるなど、児童の興味・関心に即した学習内容を取り入れる。 最後の仕上げを丁寧にやることで作品が良くなることを、実演を通して児童に伝える。
	発想や構想の能力			
	創造的な技能			
	鑑賞の能力			
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 初めての家庭科に興味をもち、意欲のある児童が多いが、調理や裁縫等の技能面での経験が少ないので、思い通りにいかず、習得が難しいと感じる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 知識面でも技能面でも学習内容を確実に理解し、習得できるよう、スモールステップで丁寧に指導する。 「できるようになった」という楽しさを実感させ、更に工夫してよりよいものを作る意欲を高めようように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「自分も作ってみたい。」と意欲を湧かせるような師範を提示する。 実習では、作業手順を示す掲示物や映像などで、理解しやすくしたり、いつでも確かめたりできるようにする。 作業時間を十分に取れるよう、授業の組み立てを工夫する。 友達の意見を聞いたり作品を見合ったりする時間をとり、自分の学習や作品作りに反映できるようにする。
	生活を創意工夫する能力			
	生活の技能			
	家庭生活についての知識・理解			
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な技能は定着しているが、自己の課題やチームの特徴に応じた工夫をする児童が少ない。 個人技の種目では、集中して練習する児童が多いが、チームプレーとなる単元では、感情的になってしまう児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題をつかんだり工夫したりするための「振り返り」の視点を提示する。 勝敗を受け入れる姿勢を身に付け、協調性をもって運動に取り組む姿勢を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のめあてを明確にしたり、タブレットや映像資料を活用したりして自己の課題や動きのこつをつかませる。また、主運動1と主運動2の間に「振り返り」の時間を設け、自己やチームの課題を考えて修正できるようにする。 各活動のねらいを明確に伝え、勝ち負けだけにとらわれない態度を養う。そのために、グルーピングやルール作り、役割分担を丁寧にを行い、称賛や励ましの声かけの視点を示す。
	運動や健康・安全についての思考・判断			
	運動の技能			
	健康・安全についての知識・理解			